

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 1月 15日

事業所名 ぽてと

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			標準的の広さは約16㎡で、東京・大阪は30㎡です。ぽてとは児童支援室63㎡に加えて遊戯室98㎡があります。
	2 職員の配置数は適切である	○		両部署間で連携できている。職員が人員配置を考えて行動できている。	法令に定められた職員に加えて、1名の増員で支援しています。今後も増員して手厚い支援を提供したいと考えています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		バリアフリー化はできていないが、環境チェックを日頃から行っている。	バリアフリー化は難しいですが、環境調整を継続して、過ごしやすい環境を整えていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		休憩時や営業終了後に清掃を行っている。	継続して清掃に取り組んでいきます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		リスク管理でインシデント・アクシデント報告の共有や振り返りで対策を検討している。カンファを通して担当児童について考えることができる。	常に改善していけるような組織創りを意識して運営してまいります。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の意見をもう少し聞く機会が持てたらいい。	気軽に保護者が要望を伝えられるようなシステム(ラインオフィシャルの利用)を検討します。4月運用を目指します。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			引き続きHPにて公開していきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		外部評価を行っているのかわからない。	沖永良部3事業所間での評価を目指しましたが、実現には課題が多いようです。引き続き実現できるように努力を継続していきます。また、保護者からの視点を活かせるように参観を促進していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		コロナの影響で進まない。職員会議後に行っている。日々の昼礼や職員会議などで資料提供がある。	島外への研修は感染対策上中止しています。感染状況を見ながら、島外への研修への参加を検討します。当面は月1回の職員会議にて研修を行っています。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			保護者のニーズを確認しながら、今後も標準化された評価を行い、客観的データを基に支援を行います。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		まだ、不十分などところもある。	現在ぽてとでは田中ビネーなど標準化された14検査を必要に応じて実施しています。今後も必要な評価ができるように検査数を増やすとともに、職員教育に取り組んでいきます。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			今後も「発達支援」「保護者支援」「地域支援」に取り組んでいきます。特に、保護者支援に関してはさまざまな形で行うことができないかを検討しています。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		各職員が努力している。	引き続き計画に沿った支援ができるように、職員の知識・技術の向上に取り組んでいきます。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		集団療育は皆で話し合い決めている。	個別の支援内容はカンファにて検討しています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		週に1回次週の活動内容の話し合いがある。同じ活動でも職員のアイディアで幅を出している。	定期的なカンファでの個別支援の検討を行っています。また、集団活動では職員のアイディアを採用できるように、アイデアを提案する機会を増やしていきます。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			今後も子どもが楽しく、遊びを通して学ぶことができるように、支援計画を作成していきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		ホワイトボードにその日の役割を明記している。ミーティングで話し合い意見を出し合っている。	引き続き職員間の意思疎通を図るとともに、支援や役割が分かりやすい工夫を行います。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			引き続き振り返りを行い、支援内容な児童の様子、安全管理に関して意見交換を行い、日々の改善に取り組んでいきます。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の変化に気づき、支援の改善に引き続き取り組んでいきます。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			引き続き、カンファなどで計画の見直しなどを検討していきます。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		今後も継続していきます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		今後も継続していきます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	本年度は対象児童はいない。	必要に応じて関係機関と連携した支援が行えるような体制を維持していきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	本年度は対象児童はいない。	必要に応じて関係機関と連携した支援が行えるような体制を維持していきます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	訪問や企画を通して連携を高めようと努力している。先生に対してほてとの支援の考えを伝える機会を持つ。	保育所等訪問支援を通して意思疎通を図っていくとともに、ほてとの支援についての考えを伝えることができるように、先生を対象とした研修会を行います。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就学支援委員会などを通して、情報共有と行っています。スムーズに就学後を過ごせるように引き続き取り組んでいきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	個人ではなく、事業所として対応している。予定はしていたが、感染対策として中止した。	他の事業所との人材交流を推進していきます。感染状況を見ながら、島外での連携や研修を検討します。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	今年度は感染対策で行えていないが、例年を行っている。	家庭や制度上の理由以外で、療育単独利用の児童はいないため、特に必要と考えていません。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		法人代表が協議会委員であり、子ども部会部長として参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	不十分である。	送迎持以外に日常で保護者と対面する機会は少ないと思います。感染対策を万全に行ったうえで、日曜ほてなど自由に家族で参加できる企画を行っていきます。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	子どもに使っている教材を家庭でも提供できるように考えている。	計画はありますが、実現できていません。困りごと体験とともにペアトレの開催を検討していきます。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		今後も契約時に丁寧な説明を行っていきます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		今後も契約時や面談時に支援計画について説明を行い、同意が得られるように丁寧な説明を行っていきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		気軽に保護者が相談を伝えられるようなシステム(ラインオフィシャルの利用)を検討します。4月運用を目指します。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	今年度は感染対策で行えていないが、例年を行っている。	感染状況を見ながら、保護者間の連携を支援できるように取り組んでいきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		今後も現体制を維持しながら、迅速に保護者からの相談や申し入れに対応していきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	コロナ禍で難しい点も多い。HPがよく更新されている。	HPの更新を継続するとともに、ラインオフィシャルを利用して、行事予定を周知したりと、新しい連絡体制を構築していきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の取扱いについて、引き続き職員教育に取り組んでいきます。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		引き続き配慮していきます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	今年度は感染対策で行えていないが、例年を行っている。	感染状況を見ながら、地域住民との交流の場を確保していきます。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルの確認および防災訓練・AED訓練・エビベン訓練を継続していきます。また、入職時にマニュアルの説明や事故対応の訓練も見えるように教育体制を整備していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		上記のように取り組んでいきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	予防接種までは把握していない。	契約時に情報の収集を行っていますが、面談時にも情報収集を行い、変更点などを確認していきます。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	医師の指示ではないが行っている。	アナフィラキシーの恐れのある児童に関しては医師の指示のもと、エビベンの利用など対応しています。その他、必要に応じて医師との連携に努めていきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		安全管理に関して責任者を任命しています。責任者を中心にして、事故等の情報の共有を行っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		例年3月に虐待に関する研修を行っています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	身体拘束の機会がなく、対応が計画されていない。	身体拘束が想定される児童の利用があれば、必要な取り組みを行っていきます。

